

200400229A

厚生労働科学研究研究費補助金
基礎研究成果の臨床応用推進研究事業

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発：遺伝子同定から臨床試験まで
に関する研究

平成16年度 総括研究報告書

主任研究者 伊東 恭悟

平成17年（2005）年 3月

目 次

I. 総括研究報告

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発：

遺伝子同定から臨床試験までに関する研究 1-20

伊東恭悟

II. 分担研究報告

1. 再燃前立腺癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 21-22

植村天受

2. 婦人科癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 23-26

嘉村敏治

3. 遺伝子、ペプチド及びペプチド抗体基礎研究に関する研究 27-30

七條茂樹

4. 胃癌と大腸癌に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 31-34

藤堂省

5. 再燃前立腺癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 35-38

野口正典

6. 高度進行癌に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 39-44

山名秀明

7. 悪性神経膠腫に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 45-48

山中龍也

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 49-50

IV. 研究成果の刊行物・別刷

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発：遺伝子同定から臨床試験まで
に関する研究

主任研究者 伊東 恭悟 久留米大学医学部教授

研究要旨：（目的） 遺伝子同定から臨床試験実施までの一連の探索的臨床研究を通じて、上皮性癌に対する治療用ペプチドワクチン及びペプチド抗体を開発する。前立腺癌と脳腫瘍に対するペプチドワクチン臨床成績が予想以上に良好なため、最終年度は改めて共同研究者の2名（植村天受・近畿大学/山中龍也・新潟大学脳研究所）に加入してもらい、更なる進展を計画した（植村研究分担者・前立腺癌担当、山中研究分担者・悪性脳腫瘍担当）（結果） 基礎研究では新規の多数の抗原及びペプチドを同定した。例えば大腸癌において抗癌剤抵抗性を付与するTYMS蛋白由来ペプチドがHLA-A2拘束性に大腸癌局所CTLによって認識されている事を見出し、またHLA-A3スーパーファミリーに拘束されるペプチドを複数同定し、癌ペプチドワクチンの分子基盤を構築した。臨床研究では当初の目的に沿い前立腺癌と脳腫瘍においてテラーメイドペプチドワクチン臨床試験の成績が医薬品化可能なレベルと確認できたために大学発ベンチャー「グリーンペプタイド社」を設立して医薬品承認を目的としての治験申請を開始した。またテラーメイド癌ペプチドワクチンの有効性を立証する前向き試験を実施し、治療目的のワクチンとしてテラーメイド癌ペプチドワクチンが優れていることを明らかにした。更に「臨床→基礎研究」では、これまで免疫療法はその臨床効果を反映するマーカーが皆無の状態であったが、我々はテラーメイド癌ペプチドワクチンによる臨床効果と抗ペプチド抗体（IgG）が相関する事を見出した。この発見は今後の免疫療法の進展に寄与するものと思われる。またこれまで有効性が得られなかった腫瘍形成型の癌種に対してのペプチドワクチン有効性をマウスモデルにて解析して新アジュバントとペプチド局所投与を併用する事により著明な抗腫瘍効果が得られた。

■ 分担研究者

植村 天受	近畿大学医学部教授
嘉村 敏治	久留米大学医学部教授
七條 茂樹	久留米大学医学部助教授
藤堂 省	北海道大学医学部教授
野口 正典	久留米大学医学部助教授
山名 秀明	久留米大学医学部教授
山中 龍也	新潟大学脳研究所講師

A. 研究目的

遺伝子同定から臨床試験実施までの一連の探索的臨床研究を通じて、上皮性癌に対する治療用ペプチドワクチン及びペプチド抗体を開発する。基礎研究ではHLA-クラス I A及びBアレルに拘束される拒絶抗原遺伝子を新規に50以上、ペプチドでは100以上同定し、さらに抗ペプチド抗体の抗腫瘍性の分子機構解明や単クローン抗体による癌治療動物モデルなどを通して上皮性癌拒絶の分子基盤の全体像を明らかにする。抗ペプチド抗体の前臨床試験を開始する。一方、臨床研究では本研究期間内にHLA-A24及びA2癌ペプチドワクチン第 I 相及び早期第 II 相臨床試験を終了させ、企業主

導型の医薬品化を目指した臨床試験へ移行させる。この場合、再燃前立腺癌と脳腫瘍を優先させる。

B. 研究方法

基礎研究（伊東、七條研究者）：①HLA-クラス I Aアレル（A24, A2, A26, A3スーパーファミリー）拘束性CD8⁺CTL株及びHLA-Bアレル（B46, B52）拘束性CD8⁺CTL株を癌局所浸潤リンパ球より樹立し、それらにより認識される抗原遺伝子とペプチドを同定し癌ペプチドワクチン分子を決定する。これによりペプチドワクチン候補の拡大と充実はかかる。②抗ペプチド抗体（IgG）産生機序や抗腫瘍性での基礎研究、さらにはSART3、Lck、PSMペプチドに対する単クローン抗体をまずマウスにて作製する。また、それらを用いてペプチド抗体の抗腫瘍作用誘導の分子レベル及び動物実験での解析を実施する。

臨床研究：①再燃前立腺癌（野口、植村研究者）：

1) 新規開発ペプチドを追加した早期第 II 相臨床試験を開始する。②スキルス胃癌および子宮頸癌（藤堂、嘉村研究者）：1) 早期第 II 相臨床試験

を実施する。④大腸癌（藤堂、山名研究者）：第Ⅰ相／早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。⑤肝臓癌（山名研究者）：1) 第Ⅰ相臨床試験を実施する。2) ⑥脳腫瘍（山中研究者）：1) 第Ⅰ相／早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。

（倫理面への配慮）

1) 本研究は「ヒトのクローンに関する研究等」に該当するおそれは全くないと判断される。2) *in vitro* にて癌特異的キラーT細胞を誘導することを目的として採血する場合は、本研究分担者ら及び他の研究協力医が直接患者に充分時間をとってその目的を説明し、理解と同意の得られた場合に限って15～30ml採血して研究に供している。3) 臨床試験についての配慮点：①GMPグレードのペプチドを米国NCI外科における臨床試験の基準にのっとり米国MPS社へ依頼して作成し（*Nature Med.* 4 : 321, 1998）無菌試験及びシーケンスを本研究室にて再確認した後、本学内での審査委員会での審査を経て臨床試験を実施する。4) 臨床試験実施においては、本研究の分担者（医師）が専任の臨床研究看護師とともに被験者から文書での自由意志による十分な説明を受けた上での同意（インフォームド・コンセント）を得て常時実施する。さらに、担当医師や看護師を中心として被験者及びその家族の疑問に答え不安に対応するための常時カウンセリングを行う体制を可及的にひいている。

C. 研究結果

基礎研究：①遺伝子変異を起こしたp53の非変異部分のペプチドがHLA-B4601拘束性のCTLにより癌局所で認識される事を解明した。②大腸癌において抗癌剤抵抗性を付与するTYMS蛋白由来ペプチドがHLA-A2拘束性に大腸癌局所CTLによって認識されている事を見出した。③HLA-A3スーパーファミリー（HLA-A3, -A11, -A31, -A33等）に拘束される新規遺伝子及びペプチドを複数同定し、癌ペプチドワクチンの分子基盤を構築した。

臨床研究：2種類の癌種（前立腺癌と脳腫瘍）においてテラーメイドペプチドワクチンの臨床試験成績が医薬品化可能なレベルである事を確認できたために大学発ベンチャー「グリーンペプタイト社」を設立して医薬品承認を目的としての治験申請を開始した。具体的にはホルモン不応性前立腺癌においてテラーメイドペプチドワクチンを施行した後に低用量のエストラムスチンを併用した場合において生存期間（中央値）が18ヶ月以上に延長した。これまでの多剤併用での臨床試験成績が12ヶ月前後である事より医薬品化の可能性が高まった。また進行性神経膠芽腫（グレード3及びグレード4）に対するテラーメイドペプチドワクチン施行にて21例中5例に

おいて奏効（RECIST判定）が認められ、かつ生存期間延長も認められたため医薬品化の可能性が高まった。これまで進行性神経膠芽腫（グレード3及びグレード4）に対する標準治療は存在していない。

「臨床→基礎研究」（Clinic to Bench Research）：以下の成果が特筆される。①これまで免疫療法はその臨床効果を反映するマーカーが皆無の状態であったが今回我々はテラーメイド癌ペプチドワクチンによる臨床効果と抗ペプチド抗体（IgG）が相関する事を見出した。即ちテラーメイド癌ペプチドワクチンの臨床試験に参加した113症例（内訳：大腸直腸癌28、前立腺癌22、肺癌15、胃癌14、メラノーマ7、子宮頸癌6、卵巣癌3、乳癌3、食道癌3等）の実生存期間と免疫反応性との解析を行った結果、投与ペプチドに対する特異的IgG抗体価が2倍以上に増強したグループにおいてのみ有意差をもって生存期間の延長が認められた。この発見は今後の免疫療法の進展に寄与するものと思われる。②ペプチドワクチン投与された肺癌患者内に、UBE2V 43-51ペプチド反応性IgGとCD4陽性T細胞が誘導されていることを示し、CTLエピトープペプチドワクチン投与に伴い、ペプチド反応性CD8陽性細胞とともにペプチドを認識するCD4陽性T細胞も生体内に誘導されている事を立証した。ペプチド特異的CD4陽性T細胞クローンはHLA-DRB1*0403拘束性と判明した。③新規に発見したペプチド抗体の機能解析のため、SART3-109単クローン抗体を樹立した。これまでの解析より既存IgGサブクラスに属しない新規のFc部分を保有する事がしめされている。④これまで有効性が得られなかった腫瘍形成型の癌種に対してのペプチドワクチン有効性をマウスモデルにて解析して新知見を得た。即ち、ペプチド全身投与に加えて、アジュバントとペプチド局所投与を併用する事により著明な抗腫瘍効果が得られた。以上の研究成果は、英文査読誌（36編）に発表済みもしくは予定であり、知的所有権は5件を申請した。一方、これまで腫瘍形成型の癌種に対しては臨床的な有効性が得られなかった。

D. 考察

基礎研究では本年度も新規の抗原ペプチドを多数同定したが、HLA-A24や-A2以外の症例へのペプチドワクチン開発を目指してA3スーパーファミリー（A3, A11, A31, A33）拘束性ペプチドを多数同定した事が特筆される。これにより、HLA-A24及び-A2拘束性ペプチドワクチン（日本人の75%、また世界では60%前後の癌患者に）限定されていたペプチドワクチンがほぼ100%の症例まで適応拡大できる可能性が示された。

臨床研究では2種類の癌種（前立腺癌と脳腫瘍）において医薬品化可能なレベルの臨床成績が確認できたために大学発ベンチャー「グリーンペプタイト社」を設立して医薬品承認を目的としての治験申請を開

始したことが特筆される。一方で腫瘍形成型のためリンパ球浸潤困難な消化管癌や乳癌では臨床効果が殆ど得られなかったことは今後の課題として残った。例えば大腸癌では40例中1例の奏効例が得られた以外は、臨床効果が得られていない。また、乳癌やメラノーマなどの皮膚癌に対しても殆ど有効性が得られなかった。従ってそれらの癌種へ臨床応用可能なペプチドワクチン開発には更なる基礎及び臨床研究の必要性が示唆された。またペプチドワクチン有効性の得られた症例においてもその後に増悪する症例が多数確認された。これらは癌細胞の免疫学的エスケープ現象によるものと判断される。文献的には癌細胞の免疫学的逃避（エスケープ現象）として、動物モデルでは癌細胞上のHLA-クラスI抗原や癌関連抗原の喪失が報告されている。しかしヒトにおいては能動的特異免疫療法におけるエスケープ現象の詳細な解明は報告されていない。更に我々は、スキルス胃癌がペプチドワクチンに高い感受性を示すものの、増悪時にはHLA-クラスI抗原喪失のみならず腫瘍形成型となる事を経験した。これらのエスケープ現象の解明もペプチドワクチン開発には不可欠な研究課題として残された。更に癌細胞は抗癌剤やホルモン治療に対してもエスケープ現象を引き起こす。このような種々の治療法に対して抵抗性が付与された癌細胞は頑健性（ロバストネス）癌細胞と呼称され、進行期の癌細胞の特性である。従って頑健性（ロバストネス）の克服は21世紀の癌治療の重要課題といえる。

E. 結論

基礎研究では①新規の多数の抗原及びペプチドを同定した。例えば大腸癌において抗癌剤抵抗性を付与するTYMS蛋白由来ペプチドがHLA-A2拘束性に大腸癌局所CTLによって認識されている事を見出した。②HLA-A3スーパーファミリーに拘束されるペプチドを複数同定し、癌ペプチドワクチンの分子基盤を構築した。

臨床研究では①前立腺癌と脳腫瘍においてテラーメイドペプチドワクチン臨床試験の成績が医薬品化可能なレベルと確認できた。②一方で腫瘍形成型のためリンパ球浸潤困難な消化管癌や乳癌では臨床効果が殆ど得られなかったことは今後の課題として残った。

「臨床→基礎研究」では①テラーメイド癌ペプチドワクチンによる臨床効果と抗ペプチド抗体(IgG)が相関する事を見出した。②これまで有効性が得られなかった腫瘍形成型の癌種に対してのペプチドワクチン有効性をマウスモデルにて解析して新アジュバントとペプチド局所投与を併用する事により著明な抗腫瘍効果が得られた。

F. 健康危険情報

【伊東恭悟 主任研究者】

当該研究での臨床試験において、健康危険情報における事項は認められなかった。

【植村天受 分担研究者】

再燃前立腺癌症例を対象とした今回のペプチドワクチン臨床試験においては、これまでに施行されてきた第I相臨床試験早期第2相臨床試験と同様に重篤な有害事象/薬物反応を認めなかった。これまでに観察された有害事象はペプチドワクチン投与部の一過性の発赤、腫脹(Grade I-2)を全例に認めた。その他としてGrade 2以下の発熱であった。

【嘉村敏治 分担研究者】

臨床試験に伴う有害事象としては、grade I～IIの局所反応のみであった。

【七條茂樹 分担研究者】

癌組織浸潤リンパ球(tumor infiltrating lymphocytes: TIL)から樹立した細胞傷害性T細胞(CTL)が認識するペプチド抗原をコードする遺伝子のほとんどが自己抗原であるにも係わらず、当該研究での臨床試験において、健康危険情報における事項は認められなかった。このことは、正常細胞と癌細胞での発現量の差、エピトープペプチドにプロセスする機序の違いなど、今後明らかにする必要がある。同時に、個々のペプチドについての安全性を慎重に検討する必要がある。

【藤堂省 分担研究者】

今回の例に対しての副作用は局所の硬結・発赤が主なもので他は軽度発熱、等であった。Grade 3以上の有害事象はなく、ほとんどがgrade Iとかわめて安全であった。

関する第I、II相臨床試験としての本レジメの申請が医学的に適格と考えられる。

【野口正典 分担研究者】

再燃前立腺癌症例を対象としたペプチドワクチン臨床試験においては、第I相臨床試験から現在の早期第II相臨床試験を通じて重篤な有害事象/薬物反応を認めていない。これまでに観察された有害事象はペプチドワクチン投与部の一過性の発赤、腫脹(grade I-II)を全例に認めた。低用量エストラムスチンとの併用療法においてもgrade IIIとgrade IVの有害事象が49例中4例及び1例のみであった。いずれもワクチン投与部変更やエストラムスチンの一時中断で改善した。その他として

grade II以下の血尿(5例)、骨痛(14例)、発熱(3例)であった。

【 山名秀明 分担研究者 】

当研究による重篤(NCI-CTCでgrade III以上もしくはは予測していない有害事象)な毒性出現は認めしていない。

【 山中龍也 分担研究者 】

今回の例に対しての副作用は局所の硬結・発赤が主なもので他は軽度発熱、等であった。Grade3以上の有害事象はなく、ほとんどがgrade1ときわめて安全であった。

G. 研究発表

1. 論文発表

【 伊東恭悟 主任研究者 】

1-1. 論文発表 (英文査読誌掲載論文)

1. Takedatsu H., Shichijo S., Azuma K., Takedatsu H., Sata M., Itoh K.: Detection of a set of peptide vaccine candidates for use in HLA-A31+ epithelial cancer patients. *Int. J. Oncol.* 24, 337-347, 2004.
2. Noguchi M., Itoh K., Suekane S., Yao A., Suetsugu N., Katagiri K., Yamada A., Yamana H., Noda S.: Phase I trial of patient-oriented vaccination in HLA-A2-positive patients with metastatic hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Sci.* 95, 77-84, 2004.
3. Harada M., Gohara R., Matsueda S., Muto A., Oda T., Iwamoto Y., Itoh K.: In vivo evidence that peptide vaccination can induce HLA-DR-restricted CD4+ T cells reactive to a class I tumor peptide. *J Immunol.* 172, 2659-2667, 2004.
4. Tsuda N., Mochizuki K., Harada M., Sukehiro A., Kawano K., Yamada A., Ushijima K., Sugiyama T., Nishida T., Yamana H., Itoh K., Kamura T.: Vaccination with predesignated or evidence-based peptides for patients with recurrent gynecologic cancers. *J. Immunother.* 27, 60-72, 2004.
5. Mine T., Sato, Y., Noguchi M., Sasatomi T., Gohara R., Tsuda N., Tanaka S., Shomura H., Katagiri K., Rikimaru T., Shichijo S., Kamura T., Hashimoto T., Shirouzu K., Yamada A., Todo S., Itoh K., Yamana H.: Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing, peptide-specific cellular responses. *Clin. Cancer Res.* 10, 929-937, 2004.
6. Ishihara Y., Harada M., Azuma K., Tamura M., Shomura H., Fujii T., Itoh K., Shichijo S.: HER2/neu-derived peptides recognized by both cellular and humoral immune systems in HLA-A2+ cancer patients. *Int. J. Oncol.* 24, 967-975, 2004.
7. Takedatsu H., Shichijo S., Katagiri K., Sawamizu H., Sata M., Itoh K.: Identification of peptide vaccine candidates sharing among HLA-A3+, -A11+, -A31+ and -A33+ cancer patients. *Clin. Cancer Res.* 10, 1112-1120, 2004.
8. Koga M., Komatsu N., Kawamoto N., Shichijo S., Itoh K., Yamada A.: Analysis of cellular localization of SART3 tumor antigen by a newly established monoclonal antibody: Heterotopic expression of SART3 on the surface of B-lineage leukemic cells. *Oncol. Rep.*, 11, 785-789, 2004.
9. Kumamaru W., Nakamura S., Kadena T., Yamada A., Kawamura E., Sasaki M., Ohyama Y., Toyoshima T., Hayashida J., Itoh K., Shirasuna K.: T-cell receptor v β gene usage by T cells reactive with the tumor-rejection antigen SART-1 in oral squamous cell carcinoma. *Int. J. Cancer* 108, 686-695, 2004.
10. Noguchi M., Noda S., Yoshida M., Ueda S., Shiraishi T., Itoh K., The Kurume-Kumamoto Estracytstudy Group: Chemohormonal therapy as primary treatment for metastatic prostate cancer: A randomized study of estramustine phosphate plus luteinizing hormone-releasing hormone agonist versus flutamide plus luteinizing hormone-releasing hormone agonist. *Int. J. Urol.* 11, 103-109, 2004.
11. Matsueda S., Kobayashi K., Nonaka Y., Noguchi M., Itoh K., Harada M.: Identification of new prostate stem cell antigen-derived peptides immunogenic in HLA-A2+ patients with hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Immunol. Immunother* 53, 479-489, 2004.
12. Sato Y., Maeda Y., Shomura H., Sasatomi T., Takahashi M., Une Y., Kondo M., Shinohara T., Hida N., Katagiri K., Sato K., Sato M., Yamada A., Yamana H., Harada M., Itoh K., Todo S.: A phase I trial of cytotoxic T-lymphocyte precursor-oriented peptide vaccines for colorectal carcinoma patients. *Br. J. Cancer* 90, 1334-1342, 2004.

13. Shomura H., Shichijo S., Matsueda S., Kawakami T., Sato Y., Todo S., and Itoh K. Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides immunogenic for HLA-A2+ cancer patients. *Br. J. Cancer* 90, 1563-1571, 2004
14. Noguchi M., Itoh K., Suekane S., Morinaga A., Sukehiro A., Suetsugu N., Katagiri K., Yamada A., Noda S. :Immunological monitoring during combination of patient-oriented peptide vaccination and estramustine phosphate in patients with metastatic hormone refractory prostate cancer. *Prostate* 60,32-45, 2004.
15. Takao Y., Yamada A., Yutani S., Sata M., Itoh K. Antibody reactive to a hepatitis C virus (HCV)-derived peptide capable of including HLA-A2 restricted cytotoxic T lymphocytes is detectable in the majority of HCV-infected individuals without HLA-A2 restriction. *Microbiol. Immunol.* 48, 507-517, 2004
16. Matsueda S., Yao A., Ishihara Y., Ogata R., Noguchi M., Itoh K., and Harada M. A prostate stem cell antigen-derived peptide immunogenic in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate*, 60, 205-213, 2004
17. Azuma K., Shichijo S., Shomura H., Matsueda S., Fujii T., Itoh K.: Identification of HER2/neu-derived peptides capable of inducing both cellular and humoral immune responses in HLA-A24 positive breast cancer patients. *Breast Cancer Res. Treat.* 86, 19-29, 2004
18. Harada M., Matsueda S., Yao A., Ogata R., Noguchi M., Itoh K.: Prostate-related antigen-derived new peptides having the capacity of inducing prostate cancer-reactive CTLs in HLA-A2+ prostate cancer patients. *Oncology Reports* 12, 601-607, 2004.
19. Yao A., Harada M., Matsueda S., Ishihara Y., Shomura H., Noguchi M., Matsuoka K., Hara I., Kamidono S., Itoh K.: Identification of parathyroid hormone-related protein-derived peptides immunogenic in human histocompatibility leukocyte antigen-A24+ prostate cancer patients. *Br J Cancer* 91, 287-296, 2004.
20. Sasada T., Takedatsu H., Azuma K., Koga M., Maeda Y., Shichijo S., Shomura H., Hirai T., Takabayashi A., Itoh K.: Immediate early response gene X-1, a stress -inducible antiapoptotic gene, encodes cytotoxic T-lymphocyte(CTL) epitopes capable of inducing human leukocyte antigen-A33-restricted and tumor-reactive CTLs in gastric cancer patients. *Cancer Res* 64, 2882-2888, 2004
21. Mochizuki K., Sato Y., Tsuda N., Shomura H., Sakamoto M., Matsuura K., Ushijima K., Maeda Y., Katagiri K., Yamada A., Todo S., Kamura T., Harada M., Itoh K.: Immunological evaluation of vaccination with pre-designated peptides frequently selected as vaccine candidates in an individualized peptide vaccination regimen. *Int J Oncol* 25, 121-131, 2004.
22. Shomura H., Shichijo S., Komatsu N., Matsueda S., Mine T., Rikimaru T., Sato Y., Todo S., Itoh K.: Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides recognized by both cellular and humoral immune responses in HLA-A24+ non-small cell lung cancer patients. *Eur J Cancer* 40, 1776-1786, 2004.
23. Takedatsu H., Okamura T., Yoshimoto K., Harada M., Koga M., Shichijo S., Sata M., Itoh K.: Expression of epithelial cancer-related antigens in hematologic malignancies applicable for peptide-based immunotherapy. *J Immunother* 27, 289-297, 2004.
24. Ogata R., Matsueda S., Yao A., Noguchi M., Itoh K., Harada M.: Identification of polycomb group protein enhancer of zeste homolog 2(EZH2)-derived peptides immunogenic in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate* 60, 273-281, 2004.
25. Shichijo S., Azuma K., Komatsu N., Ito M., Maeda Y., Ishihara Y., Itoh K.: Two proliferation-related proteins, TYMS and PGK1, could be new cytotoxic T lymphocyte-directed tumor-associated antigens of HLA-A2+ colon cancer. *Clin Cancer Res* 10, 5828-5836, 2004.
26. Bednarczuk T., Hiromatsu Y., Seki N., Ploski R., Fukutani T., Kurylowicz A., Jazdzewski K., Chojnowski K., Itoh K., Nauman J: Association of tumor necrosis factor and human leukocyte antigen DRB1 alleles with Graves' ophthalmopathy. *Human Immunology* 65, 632-639, 2004.
27. Azuma K., Sasada T., Takedatsu H., Shomura H., Koga M, Maeda Y, Yao A, Hirai T, Takabayashi A, Shichijo S, and Itoh K. *Ran*, a small GTPase gene,

- encodes CTL epitopes capable of inducing HLA-A33-restricted and tumor-reactive CTLs in cancer patients. *Clin. Cancer Res.* 10, 6695-6702, 2004
28. Fukuda K., Takao Y., Miyazaki Y., Itoh K., Yamada A.: New type of natural antibodies reactive to cytotoxic T lymphocyte-directed cancer vaccine peptides. *class Immunobiology.* 209, 245-253, 2004.
29. Noguchi M., Itoh K., Yao A., Mine T., Yamada A., Obata Y., Furuta M., Harada M., Siekane S., Matsuoka K.: Immunological evaluation of individualized peptide vaccination with a low dose of estramustine for HLA-A24+ HRPC patients. *Prostate* (in press), 2004.
30. Komatsu N, Shichijo S, Nakagawa M, and Itoh K. :New multiplexed flow cytometric assay to measure anti-peptide antibody: a novel tool for monitoring immune responses to peptides used for immunization. *Scand J Clin Lab Invest*, 64, 535-546, 2004.
31. Harada M, Matsuoda S, Yao A, Noguchi M, and Itoh K. Vaccination of cytotoxic T lymphocyte-directed peptides elicited and spread humoral and Th1-type immune responses to prostate-specific antigen protein in a prostate cancer patient. *Journal of Immunotherapy* (in press), 2004.
32. Shichijo S, Ishihara Y, Azuma K, Komatsu N, Higashimoto N, Ito M, Nakamura T, Ueno T, Harada M, and Itoh K. ABCE1, a member of ATP-binding cassette transporter gene, encodes peptides capable of inducing HLA-A2-restricted and tumor-reactive cytotoxic T lymphocytes in colon cancer patients. *Oncology Reports* (in press), 2004.
33. Shichijo S., Keicho N., Long H.T., Qry T., Phi N.C., Ha L.D., Ban V.V., Itoyama S., Hu C.-J., Komatsu N., Kirikae T., Kirikae F., Shirasawa S., Kaji M., Fukuda T., Sata M., Kuratsuji T., Itoh K., Sasazuki T. Assessment of synthetic peptides of severe acute respiratory syndrome coronavirus recognized by long-lasting immunity. *Tissue Antigens* , 64, 600-607, 2004.
34. Yamada A., Yamana H., and Itoh K. : Peptide-based vaccines for cancer immunotherapy. *Current Topics in Peptide & Protein Research* Vol.6.71-80,2004.
35. Shichijo S., Ito M., Azuma K., Komatsu N., Maeda Y., Ishihara Y., Nakamura T., Harada M., and Itoh K. : A unique gene having homology with the kinesin family member 18A encodes a tumor-associated antigen recognized by cytotoxic T lymphocytes from HLA-A2⁺ colon cancer patients. *Eur. J. Cancer.* (in press), 2005.
36. Yao A., Harada M., Matsuoda S., Ishihara Y., Shomura H., Takao Y., Noguchi M., Matsuoka K., Hara Isao., Kamidono S., and Itoh K. : New Epitope Peptides Derived From Parathyroid Hormone-Related Protein Which Have the Capacity to Induce Prostate Cancer-Reactive Cytotoxic T Lymphocytes in HLA-A2⁺ Prostate Cancer Patients. *The Prostate.* 62,233-242,2005.
- 【 植村天受 分担研究者 】
なし
- 【 嘉村敏治 分担研究者 】
37. Xiao H, Kamura T., et.al., Co-expression of Y Box-binding protein-1 and P-glycoprotein as a prognostic marker for survival in epithelial ovarian cancer. *Gynecol Oncol*, 93 : 287-291, 2004.
38. Yamamoto K, Kamura T., et.al., Pulmonary metastasectomy for uterine cervical cancer: a multivariate analysis. *Ann Thorac Surg.*, 77 : 1179-1182 , 2004
39. Tsuda N, Kamura T., et.al. Vaccination with pre-designated or evidence-based peptides for patients with recurrent gynecologic cancers. *J Immunother*, 27: 60-72, 2004.
40. Mine T, Kamura T et.al. Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing peptide-specific cellular responses. *Clin Cancer Res*, 10:927 - 937, 2004.
41. Onda T, Kamura T., et.al., Feasibility study of neoadjuvant chemotherapy followed by interval cytoreductive surgery for stage III/IV ovarian, tubal and peritoneal cancers. *Jpn J Clin Oncol*, 34:43 - 45, 2004.
42. Mochizuki K, Kamura T et.al., Immunological evaluation of vaccination with pre-designated peptides frequently selected as vaccine candidates in an individualized peptide vaccination regimen. *Int J Oncol*,

25:121-131, 2004.

43. Nishida N, Kamura T et.al., Vascular endothelial growth factor C and vascular endothelial growth factor receptor 2 are closely related to prognosis of ovarian carcinoma. *Cancer*,101:1364-1374,2004.

44. Onda T, Kamura T, et.al., Cisplatin , paclitaxel and escalating doses of doxorubicin (TAP) in advanced ovarian cancer : a phase I trial *Jpn J Clin Oncol*, 34:540 - 546, 2004

45. Kurwano M, Kamura T, et.al., The role of nuclear Y-box binding protein 1 asa a global marker in drug resistance. *Mol Cancer Ther*, 3:1485 - 1492, 2004

46. Takemoto Y, Kamura T, et.al., Antiproliferative effects of interferon- α con1 on ovarian clear cell adenocarcinoma in vitro and in vivo . *Clin Cancer Res*, 10:7418 - 7426, 2004

【七條茂樹 分担研究者】

47. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K, and Yamana H: Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing peptide-specific cellular responses. *Clin Cancer Res*, 10(3), 929-937, 2004.

48. Takedatsu H, Shichijo S, Katagiri K, Sawamizu H, Sata M and Itoh K: Identification of peptide vaccine candidates sharing among HLA-A3⁺, -A11⁺, -A31⁺, and -A33⁺ cancer patients. *Clinical Cancer Research*, 10(3), 1112-1120, 2004.

49. Ishihara Y, Harada M, Azuma K, Tamura M, Shomura H, Fujii T, Itoh K, and Shichijo S: HER2/neu-derived peptides recognized by both cellular and humoral immune system in HLA-A2⁺ cancer patients. *International Journal of Oncology*, 24(4), 967-975, 2004.

50. Koga M, Komatsu N, Kawamoto N, Shichijo S, Itoh K, and Yamada A: Analysis of cellular localization of SART3 tumor antigen by a newly established monoclonal antibody: Heterotopic expression of SART3 on the surface of B-lineage leukemic cells. *Oncology Reports*, 11(4), 785-789, 2004.

51. Shomura H, Shichijo S, Matsueda S, Kawakami T, Sato Y, Todo S, and Itoh K: Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides immunogenic for HLA-A2⁺ cancer patients. *British Journal of cancer*, 90, 1563-1571, 2004.

52. Azuma K, Shichijo S, Shomura H, Matsueda S, Fujii T, and Itoh K: Identification of HER2/neu-derived peptides capable of inducing both cellular and humoral immune responses in HLA-A24 positive breast cancer patients. *Breast Cancer Research and Treatment*, 86, 19-29, 2004

53. Sasada T, Takedatsu H, Azuma K, Koga M, Maeda Y, Shichijo S, Shomura H, Hirai T, Takabayashi A, and Itoh K.: IEX-1, a stress inducible anti-apoptotic gene, encodes CTL epitopes capable of inducing HLA-A33-restricted and tumor-reactive CTLs in gastric cancer patients. *Can Res*, 64, 2882-2888, 2004.

54. Komatsu N, Shichijo S, Nakagawa M, and Itoh K: New multiplexed flow cytometric assay to measure anti-peptide antibody: A novel tool for monitoring immune responses to peptides used for immunization. *The Scandinavian journal of Clinical & Laboratory Investigation*, 64, 535-546, 2004.

55. Shichijo S, Azuma K, Komatsu N, Ito M, Maeda Y, Ishihara Y, and Itoh K: Two proliferation-related proteins, TYMS and PGK1, could be new CTL-directed tumor-associated antigens of HLA-A2⁺ colon cancer. *Clinical Cancer Research*,; 10(17): 5828-36, 2004

56. Shomura H, Shichijo S, Komatsu N, Matsueda S, Mine T, Rikimaru T, Sato Y, Todo S, Itoh K: Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides recognized by both cellular and humoral immune responses in HLA-A24⁺ non-small cell lung cancer patients. *European Journal of Cancer* 40, 1776-1786, 2004

57. Azuma K, Sasada T, Takedatsu H, Shomura H, Koga M, Maeda Y, Yao A, Hirai T, Takabayashi A, Shichijo S, and Itoh K: *Ran*, a small GTPase gene, encodes CTL epitopes capable of inducing HLA-A33-restricted and tumor-reactive CTLs in cancer patients. *Clinical Cancer Research*, 10, 6695-6702, 2004

58. Takedatsu H, Okamura T, Yoshimoto K, Harada M, Koga M, Shichijo S, Sata M, Itoh K: Expression of epithelial cancer-related antigens in hematologic

malignancies applicable for peptide-based immunotherapy. *J Immunother.* 27(4):289-97, 2004.

59. Shichijo S, Ishihara Y, Azuma K, Komatsu N, Higashimoto N, Ito M, Nakamura T, Ueno T, Harada M, and Itoh K: ABCE1, a member of ATP-binding transporter gene, encodes peptides capable of inducing HLA-A2-restricted and tumor-reactive cytotoxic T lymphocytes in colon cancer patients. *Oncology Reports*, (in press), 2005.

【藤堂省 分担研究者】

60. Hata T, Takahashi H, Watanabe K, Takahashi M, Taguchi K, Itoh T, Todo S: Magnetic Resonance Imaging for Preoperative Evaluation of Breast Cancer: A Comparative Study with Mammography and Ultrasonography, *Journal of the American College of Surgeons* 198(2): 190-197, 2004 Feb.

61. Shomura H, Shichijo S, Matsueda S, Mine T, Rikimaru T, Sato Y, Todo S, Itoh K: Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides recognized by both cellular and humoral immunities in HLA-A24⁺ non-small cell lung cancer patients. *European J. Cancer* 40(11):1776-86, 2004.

62. Kishino S, Ogawa M, Takekuma Y, Sugawara M, Shimamura T, Furukawa H, Todo S, Miyazaki K: The Variability of liver graft function and urinary 6 β -hydroxycortisol to cortisol ratio during liver regeneration in liver transplant recipients, *Clinical Transplantation* 18: 124-129, 2004 March

63. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K, Yamana H: Humoral Responses to Peptides Correlate with Overall Survival in Advanced Cancer Patients Vaccinated with Peptides Based on Pre-existing, Peptide-Specific Cellular Responses, *Clinical Cancer Research* 10: 929-937, 2004 Feb.

64. Sato Y, Maeda Y, Shomura H, Sasatomi T, Takahashi M, Une Y, Kondo M, Shinohara T, Hida N, Katagiri K, Sato K, Sato M, Yamada A, Yamana H, Harada M, Itoh K, Todo S: A Phase I trial of cytotoxic T-lymphocyte precursor-oriented peptide vaccines for colorectal carcinoma patients, *British Journal of Cancer* 90: 1334-1342, 2004 March

65. Shomura H, Shichijo S, Matsueda S, Kawakami T,

Sato Y, Todo S, Itoh K: Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides immunogenic for HLA-A2⁺ cancer patients. *British J. Cancer* 90(8):1563-71, 2004.

66. Sato Y, Kondo M, Kohashi S, Takahashi N, Takahashi S, Shinohara T, Ono K, Matsuda M, Ryoma Y, Shiroto H, Kondo Y, Uchino J, Saito K, Todo S: Randomized controlled study of immunochemotherapy with OK-432 after curative surgery for gastric cancer. *J Immunother* 27(5): 394-397, 2004.

67. Motizuki K, Sato Y, Tsuda N, Shomura H, Sakamoto M, Matsuura K, Ushijima K, Maeda Y, Katagiri K, Yamada A, Todo S, Kamura T, Harada M, Itoh K, : Immunological evaluation of vaccination with pre-designated peptides frequently selected as vaccine candidates in an individualized peptide vaccination regimen. *International J Oncology* 24:121-131, 2004.

【野口正典 分担研究者】

68. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Yao A, Suetsugu N, Katagiri K, Yamada A, Yamana H, Noda S.: Phase I trial of patient-oriented vaccination in HLA-A2-positive patients with metastatic hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Sci* 95-1 : 77-84, 2004

69. Noguchi M, Noda S, Yoshida M, Ueda S, Shiraishi T, Itoh K and the Kurume-Kumamoto Estracyt Study Group: Chemohormonal Therapy As Primary Treatment For Metastatic Prostate Cancer: A Randomized Study Of Estramustine Phosphate Plus LHRH Agonist Versus Flutamide Plus LHRH Agonist. *Int J Urol* 11 : 103-109, 2004

70. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K and Yamana H.: Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing peptide-specific cellular responses. *Clin Cancer Res* 10 : 929-967, 2004

71. Matsueda S, Kobayashi K, Nonaka Y, Noguchi M, Itoh K, Harada M.: Identification of new prostate stem cell antigen-derived peptides immunogenic in HLA-A2+ patients with hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Immunol Immunother* 53 : 479-489, 2004

72. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Morinaga A, Sukehiro A, Suetsugu N, Katagiri K, Yamada A, Noda

S.: Immunological Monitoring During Combination of Patient-Oriented Peptide Vaccination and Estramustine Phosphate in Patients With Metastatic Hormone Refractory Prostate Cancer. *Prostate* 60 : 32-45,2004

73. Matsueda S, Yao A, Ishihara Y, Ogata R, Noguchi M, Itoh K, and Harada M.: A prostate stem cell antigen-derived peptide immunogenic in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate* 60 : 205-213,2004

74. Yao A, Harada M, Matsueda S, Ishihara Y, Shomura H, Noguchi M, Matsuoka K, Hara I, Kamidono S, Itoh K.: Identification of parathyroid hormone-related protein-derived peptides immunogenic in human histocompatibility leukocyte antigen-A24+ prostate cancer patients. *Br J Cancer* 91 : 287-296,2004

75. Harada M, Matsueda S, Yao A, Otaga R, Noguchi M, Itoh K.: Prostate-related antigen-derived new peptides having the capacity of inducing prostate cancer-reactive CTLs in HLA-A2+ prostate cancer patients. *Oncology Reports* 12 : 601-607,2004

76. Ogata R, Matsueda S, Yao A, Noguchi M, and Itoh K.: Identification of polycomb group protein enhancer of zeste homolog 2 (EZH2)-derived peptide immunogenic in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate* 60 : 273-281,2004

77. Noguchi M, Shimada A, Yahara J, Suekane S, Noda S.: Early catheter removal 3 days after radical retropubic prostatectomy. *Int J Urol* 11 : 983-988, 2004.

【 山名秀明 分担研究者 】

78. Tsuda N, Mochizuki K, Harada M, Sukehiro A, Kawano K, Yamada A, Ushijima K, Sugiyama T, Nishida T, Yamana H, Itoh K, Kamura T : Vaccination with predesignated or evidence-based peptides for patients with recurrent gynecologic cancers. *J Immunother* 27: 60-72, 2004

79. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Yao A, Suetsugu N, Katagiri K, Yamada A, Yamana H, Noda S: Phase I trial of patient-oriented vaccination in HLA-A2-positive patients with metastatic hormone-refractoryprostatic cancer. *Cancer Sci* 95:77-84, 2004.

80. Nagamatsu Y, Shima I, Hayashi A, Yamana H, Shirouzu K, Ishitake K: Preoperative spirometry versus expired gas analysis during exercise testing as predictors of cardiopulmonary complications after lung re-section. *Surg Today* 34: 107-110, 2004.

81. Mine T, Sato T, Noguchi M, Sasatomi T, Gouha-ra R, Tsuda N, Tanaka S, Shomaru H, Katagiri K, Rikimaru T, Schichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamata A, Todo S, Itoh K, Yamana H: Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptide based on pre-existing, peptide specific cellular responses. *Clin Cancer Res* 10: 929-937, 2004.

82. Sato Y, Maeda Y, Shomura H, Sasatomi T, Takahashi M, Kondo M, Shinohara T, Hida N, Katagiri K, Sato K, Sato M, Yamada A, Yamana H, Harada M, Itoh K, Todo S: A phase I trial of cytotoxic T-lymphocyte precursor-oriented peptide vaccines for colorectal varcinima patients. *Br J Cancer* 90(7): 1334-1342, 2004. (Apr 5)

83. Tanaka Y, Fujii T, Yamana H, Kato S, Morimatsu M, Shirouzu K: Experimental gene therapy using p21/Waf1 gene for esophageal squamous cell carcinoma by gene gun technology. *Int J Mol Med*. 14(4):545-551, 2004.(Oct)

84. Kuwano M, Oda Y, Izumi H, Yang SJ, Uchiumi T, Iwamoto Y, Toi M, Fujii T, Yamana H, Kinoshita H, Kamura T, Tsuneyoshi M, Yasumoto K, Kohno K: The role of nuclear Y-box binding protein 1 as a global marker in drug resistance. *Mol Cancer Ther* 3(11): 1485-1492, 2004.

85. Fujita H, Sueyoshi S, Tanaka T, Matono S, Mori N, Shirouzu K, Yamana H, Suzuki G, Hayabuchi N, Matsui M: Esophagectomy: Is it necessary after chemoradiotherapy for a local advanced T4 esophageal cancer? Prospective randomized trial comparing chemoradiotherapy with surgery versus without surgery. *World J Surg* 9: Epub ahead of print, 2004.

86. Yokoyama G, Fujii T, Tayama K, Yamana H, Kuwano M, Shirouzu K: PKCδ and MAPK mediate G(1) arrest induced by PMA in SKBR-3 breast cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun* 327: 720-726, 2005.

【 山中龍也 分担研究者 】

87. Yamanaka R, Xanthopoulos KG.: Development of improved Sindbis virus-based DNA expression vector. *DNA Cell Biol* 23(2):75-80, 2004

88. Yamanaka R: Alpha Virus Vectors for Cancer Gene Therapy (Review). *Int J Oncol*.

Apr;24(4):919-923,2004.

89. Yamanaka R, Tanaka R: Advances for the treatment of primary central nervous system lymphoma (Review). Oncol Rep 12:563-568, 2004.

90. Yamanaka R, Tanaka R: Gene Therapy of Brain Tumor with Endostatin. Drug of Today 40(11):931-934,2004

1-2. 論文発表 (和文査読誌掲載論文)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. 古田雅俊、由谷茂、峯孝志、伊東恭悟：医師主導型臨床試験における電子カルテ導入に向けての検討。医療とIT 2004/2

2. 末次典恵、田村真由美、野口正典、助廣亜希、伊東恭悟：癌ペプチドワクチン療法中の再燃前立腺癌患者のQOLについて。九大医保健紀要 2004, vol 4, 47-56.

【植村天受 分担研究者】

なし

【嘉村敏治 分担研究者】

3. 牛嶋公生、嘉村敏治、他：子宮頸がんIII期症例における治療成績と障害。日本婦人科腫瘍学会雑誌 2004 ; 22 : 327-333.

【七條茂樹 分担研究者】

なし

【藤堂省 分担研究者】

4. 中西一彰、神山俊哉、中川隆公、蒲池浩文、倉内宣明、松下通明、藤堂省：特集 消化器疾患に対するクリニカルパスの評価 11. 肝臓外科 外科 66(1): 60-65, 2004 Jan.

5. 川村秀樹、神山俊哉、倉内宣明、中川隆公、蒲池浩文、横山良司、工藤岳秋、下國達志、松下通明、藤堂省：^{99m}Tc-GSAシンチグラフィを用いた肝障害度別換算ICGR₁₅による肝予備能の評価 日本消化器外科学会雑誌37(1):14-20, 2004 Jan.

6. 砂原正男、神山俊哉、佐藤直樹、倉内宣明、伊東東一、大久保尚、片山知也、松下通明、藤堂省：下大静脈閉塞を伴った多包性肝エキノコックス症2切除例の検討 日本消化器外科学会雑誌37(2): 165-170, 2004 Feb.

7. 岸野史志、馬淵朋美、武隈洋、菅原満、嶋村剛、古川博之、藤堂省、宮崎勝巳：生体部分肝移植患者におけるLinezolid(Zyvox)の体内動態 TDM研究21(1):21-25, 2004 Feb.

8. 陳孟鳳、嶋村剛、鈴木友己、谷口雅彦、中山雅人、太田稔、中西一彰、中川隆公、神山俊哉、松下通明、古川博之、藤堂省：特集 肝臓外科一課題とその対応—グラフト機能不全の病態と対応 肝胆臓4/(2): 241-249, 2004 Feb.

9. 陳孟鳳、嶋村剛、鈴木友己、谷口雅彦、太田稔、蒲池浩文、中西一彰、中川隆公、倉内宣明、神山俊哉、松下通明、古川博之、藤堂省：特集 外科手術と阻血・虚血の諸問題 II. 肝の阻血 4. 脳死肝移植における肝保存と阻血再灌流障害 外科 66(2): 148-154, 2004 Feb.

10. 高橋将人、渡邊健一、田口和典、高橋弘昌、伊藤智雄、藤堂省：ステレオガイド下吸引補助乳房針生検(マンモトーム生検)の有用性と問題点 日本臨床外科学会雑誌65(2): 302-306, 2004 Feb.

11. 柴崎晋、佐藤裕二、近藤正男、高橋周作、篠原敏樹、藤堂省：残胃多発癌を含む異時性4重複癌の1例 日本臨床外科学会雑誌65(2): 544-548, 2004 Feb.

12. 神山俊哉、松下通明、藤堂省：消化器病診療—良きインフォームド・コンセントに向けて 肝切除(監修 日本消化器病学会) 医学書院 pp355-358, 2004 April

13. 平田珠希、佐藤隆啓、山崎克、赤池淳、桑田靖昭、大村卓味、狩野吉康、豊田成司、松下通明、神山俊哉、中川隆公、藤堂省：肝巨大血管腫によるKasabach-Merritt症候群の1例 肝臓45(1): 33-38, 2004 April

14. 岡田忠雄、佐々木文章、長和俊、廣方玄太郎、藤堂省：特集 膵・胆管合流異常のトピックス 出生前診断例の治療 小児外科36(4): 456-461, 2004 April

15. 山岡義生、沖田極、小俣政男、藤堂省：座談会 肝臓—これからの課題— 月刊カレントテラピー22(5): 524-530, 2004 May

16. 蒲池浩文、倉内宣明、藤堂省：特集 胆嚢結石症治療のガイドライン作成に向けて 胆嚢結石症治療のアルゴリズムとクリニカルパス 胆道 18(2): 138-144, 2004 May

17. 後藤了一、佐藤裕二、近藤正男、津田一郎、高橋周作、許理威、篠原敏樹、工藤謙三、藤堂省：自然緩解を繰り返したS状結腸捻転症の1例、北海道外科学会雑誌49(1), 33-37, 2004.

【野口正典 分担研究者】

18. 出口大輔、森健策、目加田慶人、長谷川純一、鳥脇純一郎、野口正典：仮想前立腺に対する針生検シミュレーションシステムの開発。電子情報通信学会論文誌 D-II J87-D-II : 281-289, 2004

19. 野口正典、野田進士、松岡啓：根治的前立腺全摘術後のQOL：術式によるQOLへの影響。西日本泌尿器科 66-4 : 226-234, 2004

20. 末次典江、田村真由美、野口正典、助廣亜希、伊東恭吾：癌ペプチドワクチン療法中の再燃前立腺癌患者のQOLについて。九大医保健紀要 4 : 47-56, 2004

【山名秀明 分担研究者】

なし

【山中龍也 分担研究者】

なし

1-3. 論文発表 (総説・プロシーディング・その他)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. 峯孝志、由谷茂、伊東恭悟、山名秀明：患者オリエンテッド癌免疫療法。Medical Science Digest 30, 129-133, 2004

2. 由谷茂、峯孝志、伊東恭悟：癌ペプチドワクチン療法。血液・免疫・腫瘍9, 45-50, 2004

3. 野口正典、伊東恭悟、松岡啓：テーラーメイド型ペプチドワクチン - 第II相試験から創薬化へ。泌尿器外科 17 (臨増), 475-480, 2004.

4. 峯孝志、伊東恭悟、山名秀明：癌ワクチンを用いた免疫療法。FOCUS on ONCOLOGY No. 1, 20-22, 2004.

5. 上田龍三、伊東恭悟、首藤紘一：免疫療法の立場からのがん分子標的治療 - 産学の接点を搜して。がん分子標的治療 2, 6-13, 2004.

6. 前田好章、峯孝志、佐藤裕二、藤堂省、伊東恭悟：腫瘍抗原ペプチド特異的キラーT細胞の簡易検出法。

臨床免疫 42(5), 576-579, 2004.

【植村天受 分担研究者】

なし

【嘉村敏治 分担研究者】

7. 牛嶋公生、嘉村敏治、他：進行子宮腫瘍。産婦人科の実際, 2004 ; 53 : 383-389.

【七條茂樹 分担研究者】

なし

【藤堂省 分担研究者】

なし

【野口正典 分担研究者】

8. 野口正典、伊藤恭悟、松岡啓：テーラーメイド型ペプチドワクチン - 第II相試験から創薬化へ。泌尿器外科17(臨増):475-48, 2004

9. 野口正典：特集 前立腺生検の最前線 説明、禁忌と合併症、前処置。臨床泌尿器科 : 58-7, 2004

【山名秀明 分担研究者】

10. 唐宇飛、山名秀明：食道癌の集学的治療；とくに癌免疫療法の現状と展望について。消化器外科27(1): 99-105, 2004.

11. 峯孝志、由谷茂、伊東恭悟、山名秀明：患者オリエンテッド癌免疫療法。Medical Science Digest 30(4):129-133, 2004.

12. 藤井輝彦、山名秀明、桑野信彦：第III章 胃癌の治療 8. その他の治療(I)血管阻害薬、臨床消化器内科(増刊号 胃癌治療update 2004) 19(7): 980-987, 2004.

13. 田中優一、藤田博正、田中寿明、的野吾、森直樹、李美慧、笹原弘子、末吉晋、山名秀明、白水雄：食道切除後の再建胃管癌に対し光線力学療法(PDT)および胃部分切除を施行した一例。臨床と研究81(7):1183-1186, 2004.

14. 山名秀明、安藤暢敏：食道がんに対する術後補助化学療法の有効性。血液・腫瘍科 49(3):311-316, 2004.

15. 唐宇飛、藤井輝彦、田山光介、弥永浩、横山吾郎、山口美樹、堀内彦之、笹富輝男、高森信三、白水雄、関直子、山名秀明：抗癌剤・放射線併用免疫細胞療法の効果と患者リンパ球サイトカイン産生

に関する検討。癌と化学療法 31(11): 1649-1651, 2004.

16. 堀内彦之、唐宇飛、内田信治、林克実、木下壽文、山名秀明、青柳成明、白水雄、小金丸雅道：肝転移を伴う進行膵癌の局所癌免疫化学療法の経験。癌と化学療法 31(11): 1752-1754, 2004.

【山中龍也 分担研究者】

17. Yamanaka R, Homma J, Yajima N, Tsuchya N, Tanaka R Vaccination of recurrent glioma patients with tumour lysate-pulsed dendritic cells elicits immune responses: results of a clinical phase I/II trial Molecular Ther 9 (1), S98, 2004

18. Yamanaka R, Homma J, Yajima N, Tsuchya N, Takahashi M, Tanaka R Vaccination of recurrent glioma patients with tumour lysate-pulsed dendritic cells elicits immune responses: results of a clinical phase I/II trial Proc. Am. Assoc. Cancer Res. 45, 1237, 2004

19. Homma J, Yamanaka R, Abe T, Narita M, Takahashi M, Tanaka R Vaccination of recurrent glioma patients with tumour lysate-pulsed dendritic cells elicits immune responses: results of a clinical phase I/II trial Abstract book for the 3rd Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, pp7, 2004

20. Yamanaka R, Yajima N, Yamada A, Itoh, K, Mine T, Tanaka R Immunological evaluation of personalized peptide vaccination for patients with malignant glioma: the results of a clinical phase I trial Abstract book for the 3rd Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, pp7-8, 2004.

1-4. 論文発表 (著書)

【伊東恭悟 主任研究者】
なし

【植村天受 分担研究者】
なし

【嘉村敏治 分担研究者】
なし

【七條茂樹 分担研究者】
なし

【藤堂省 分担研究者】
なし

【野口正典 分担研究者】

1. 野口正典：男性機能の老化を学び、老化を防ぐ。老化を学び老化を防ぐ。佐川公矯、石川達也編、五紘舎、東京：61-73, 2004

【山名秀明 分担研究者】

2. 山名秀明：経口摂取不能な末期食道癌患者のQOL向上処置。消化器外科診療二頁の秘訣、北島政樹(編)、ヘルス出版、pp102-103, 2004.

【山中龍也 分担研究者】
なし

2. 学会発表

2-1. 海外学会発表 (口頭・ポスター発表)

【伊東恭悟 主任研究者】
なし

【植村天受 分担研究者】

1. H Uemura, K Fujimoto, M Tanaka, N Tanaka, E Okajima, Y Hirao. Tailor-made peptide vaccines for hormone refractory prostate cancer. The 7th German-Japanese Confederation Meeting; 2004. 6. 12-16, Austria.

2. H Uemura, K Fujimoto, M Tanaka, N Tanaka, E Okajima, Y Hirao. Patient-oriented vaccine therapy for hormone refractory prostate cancer. The 20th Urological Research Society Meeting ; 2004.9.28-30, Seoul.

【嘉村敏治 分担研究者】

3. Kamura T. Cisplatin resistance and transcription factor YB-1 in ovarian cancer. The 8th Symposium of the Japanese-German Society, Berlin, Germany(2004.9.13~17)

4. Ushijima K, Kamura T et al., Phase II study of docetaxel and carboplatin in patients with recurrent epithelial ovarian cancer after first-line treatment with paclitaxel and / or platinum. The 10th Biennial International Gynecologic Cancer Society meeting (IGCS), Edinburgh, UK(2004.10.3~7)

5. Nishio S, Kamura T et al., Clinicopathological prognostic factors of FIGO stage III C endometrial carcinoma. The 10th Biennial International Gynecologic Cancer Society meeting (IGCS), Edinburgh, UK(2004.10.3~7)

【 七條茂樹 分担研究者 】

なし

【 藤堂省 分担研究者 】

6. Living Donor Liver Transplantation for Patients with Hepatocellular Carcinoma: Experience in Japan, American Surgical Association 124th Annual Meeting, San Francisco, USA, 2004.4.15

【 野口正典 分担研究者 】

7. Noguchi M, Shimada A, Yahara J, Suekane S, Matsuoka K: Early catheter removal 3 days after radical petropubic prostatectomy. The 19th Congress of the European Association of Urology, Vienna, Austria. March 24-27, 2004.

8. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Yamada A, Matsuoka K: Immunological evaluation of individualized peptide vaccination with low dose of estramustine for HRPC patients. The 19th Congress of the European Association of Urology, Vienna, Austria. March 24-27, 2004.

9. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Yamada A, Matsuoka K.: Immunological Monitoring during Combination of Patient-Oriented Peptide Vaccination and Estramustine Phosphate in Patients with Metastatic Hormone Refractory Prostate Cancer. SIU, Honolulu, Hawaii. October 3-7, 2004

10. Noguchi M, Deguchi D, Toriwaki J, Mori K, Mekada Y, Matsuoka K.: Evaluation of prostate biopsy strategy for cancer detection using a computer simulation system with virtual needle biopsy of a 3-D prostate model. SIU, Honolulu, Hawaii. October 3-7, 2004

11. Suekane S, Noguchi M, Nakashima O, Kojiro M, Matsuoka K.: Percentage of cancer length on systematic sextant biopsies is an independent predictor of pathological features of prostate cancers after radical prostatectomy
SIU, Honolulu, Hawaii. October 3-7, 2004

12. Noguchi M: Individualized peptide vaccination with a low dose of estramustine for hormone refractory prostate cancer patients
2004 International Forum 「Forefront of Personalized Cancer Therapy, September 27, 2004, Kurume

【 山名秀明 分担研究者 】

13. Toh U, Mine T, Sasatomi T, Horiuchi H, Fujii T, Ishibashi N, Fujita H, Shirouzu K, Koganemaru M,

Yutani S, Yamana H: Intraarterial cell transfer immunotherapy for the patients with refractory liver metastases of recurrent gastrointestinal cancer. 95th Annual Meeting of American Association for Cancer Research (2004.3.27-31, Orlando)

14. Yamana H, Toh U: Immunotherapy and cancer. Is it reality? IX World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (2004.5.27-29, 2004, Madrid)

15. Toh U, Yamana H, Fujii T, Sasatomi T, Takamori S, Araki Y, Ogo E, Shirouzu K: Repeated immune cell transfer therapy combined with non myeloablative chemotherapy in patients with refractory recurrent gastrointestinal and lung cancer. 40th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (2004.6.5-8, New Orleans)

16. Lee M, Sueyoshi S, Tanaka T, Tanaka Y, Fujita H, Yamana H, Shirouzu K: A case of penetrated ulcer of the reconstructed gastric tube to the pericardium after Esophagectomy for esophageal cancer. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (2004.12.8-11, 2004, Yokohama)

17. Mori N, Fujita H, Sueyoshi S, Tanaka T, Tanaka Y, Yamana H, Shirouzu K: Acid secretion of the gastric tube as an esophageal substitute after radical Esophagectomy for thoracic esophageal cancer. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (2004.12.8-11, 2004, Yokohama)

18. Nagano T, Sueyoshi S, Tanaka T, Tanaka Y, Yamana H, Fujita H, Shirouzu K: Clinical Analysis of esophageal cancer associated with other primary malignances. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (2004.12.08-11, 2004, Yokohama)

19. Sasatomi T, Fukumitsu M, Matono K, Ogata Y, Itoh K, Yamana H, Shirouzu K: Cellular and hormonal immune response to recurrent colorectal cancer by peptide vaccination with chemotherapy. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (2004.12.8-11, 2004, Yokohama)

20. Takenaka M, Toh U, Fujii T, Tayama K, Yokoyama G, Horiuchi H, Shirouzu K, Koganemaru M, Yamana H: Intraarterial cell transfer immunotherapy for the patients with refractory liver metastases of recurrent gastrointestinal cancer. 19th World Congress of

International Society for Digestive Surgery (2004.12.8-11, 2004, Yokohama)

21. Toh U, Fujii T, Tayama K, Sasatomi T, Shirouzu K, Seki N, Yamana H: The synergistic effects of proteasome inhibitor PS-341 and TRAIL against to human tumor cells. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (2004.12.8-11, 2004, Yokohama)

【山中龍也 分担研究者】

22. Yamanaka R, Homma J, Abe T, Yajima N, Tsuchiya N, Kobayashi T, Narita M, Takahashi M, Tanaka R Vaccination of recurrent glioma patients with tumour lysate-pulsed dendritic cells elicits immune responses: results of a clinical phase I/II trial. The American Association of Gene Therapy's 7th Annual Meeting, Minneapolis, MN, USA June 2-6, 2004.

23. Homma J, Yamanaka R, Abe T, Narita M, Takahashi M, Tanaka R Vaccination of recurrent glioma patients with tumour lysate-pulsed dendritic cells elicits immune responses: results of a clinical phase I/II trial. The 3rd Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, Shanghai, November 19-22, 2004

24. Yamanaka R, Yajima N, Yamada A, Itoh, K, Mine T, Tanaka R Immunological evaluation of personalized peptide vaccination for patients with malignant glioma: the results of a clinical phase I trial. The 3rd Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, Shanghai, November 19-22, 2004

2-2. 国内学会発表 (口頭・ポスター発表)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. 伊東恭悟: テーラーメイド癌治療ペプチドワクチン: 臨床研究から創薬研究へ. 第41回日本臨床分子医学会学術総会. 7/16-17/2004. 福岡
2. 山田亮, 伊東恭悟: テーラーメイドペプチドワクチン療法の開発. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
3. 上野隆登, 由谷茂, 高尾由香里, 山田亮, 佐田通夫, 桑野信彦, 伊東恭悟: 肝細胞癌の発症、再発予防に対するペプチドワクチン第I相臨床試験速報. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
4. 高尾由香里, 山田亮, 由谷茂, 上野隆登, 佐田通夫, 伊東恭悟: HCV 肝癌再発予防用ペプチドワクチンの開発. 第63回日本癌学会学術総会,

9/29-10/1/2004, 福岡.

5. 小野剛治, 山田亮, 伊東恭悟: 癌ワクチンペプチドによるマスト細胞・好塩基球活性化. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
6. 王毅, 原田守, 山田亮, 伊東恭悟: 種々の癌細胞における prostatic acid phosphatase (PAP) の発現. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
7. 八尾昭久, 原田守, 松枝智子, 野口正典, 原勲, 守殿貞夫, 伊東恭悟: HLA-A2 陽性前立腺癌患者で免疫原性を有する parathyroid hormone-related protein 由来抗原ペプチドの同定. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
8. 石原愉希, 七條茂樹, 東公一, 小松誠和, 伊東恭悟: 大腸癌患者由来HLA-A2拘束性CTLが認識する kinesin family と考えられる新規遺伝子の同定. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
9. 正村裕紀, 七條茂樹, 松枝智子, 前田好章, 近藤正男, 佐藤裕二, 藤堂省, 伊東恭悟: HLA-A24 陽性肺非小細胞癌患者の細胞性および液性免疫の両方で認識される上皮成長因子受容体 (EGFR) 由来ペプチドの同定. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
10. 豊嶋健史, 中村誠司, 熊丸渉, 石橋浩晃, 大山順子, 嘉手納勉, 佐々木匡理, 川村英司, 林田淳之将, 森山雅文, 山田亮, 伊東恭悟, 白砂兼光: 口腔扁平上皮癌患者における腫瘍周囲のリンパ球浸潤と抗腫瘍細胞傷害性T細胞の in vitro 誘導との関連. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
11. 東公一, 七條茂樹, 石原愉希, 小松誠和, 伊東恭悟: HLA-A2大腸癌患者におけるCTLにより認識される Thymidylate synthase 由来抗原ペプチドの同定. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
12. 矢島直樹, 山中龍也, 峯孝志, 山田亮, 伊東恭悟, 田中隆一: 悪性神経膠腫に対する CTL precursor-oriented peptide vaccine therapy—第I/II相臨床試験—. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
13. 穴見日米子, 田中正俊, 由谷茂, 伊東恭悟: 肝

癌患者にみる代替療法の現状. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.

14. 笹田哲朗、東公一、竹田津宏子、古賀真、前田好章、正村裕紀、七條茂樹、高林有道、伊東恭悟：胃癌組織由来の細胞傷害性T細胞株を用いた新たなHLA-A33拘束性癌抗原エピトープの同定. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
15. 前田好章、佐藤裕二、正村裕紀、本間重紀、近藤正男、藤堂省、伊東恭悟：胃癌、大腸癌に対する、ペプチドワクチン臨床試験（長期投与例の臨床試験を中心に）. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
16. 望月一生、牛嶋公生、正村裕紀、坂本優、前田好章、山田亮、原田守、嘉村敏治、伊東恭悟：治療不応癌、再発癌に対するpre-designated peptide vaccine療法の評価. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡. 3
17. 小松誠和、七條茂樹、伊東恭悟：フローメトリーによるペプチド抗体測定とワクチンモニタリング. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
18. 松枝智子、原田守、八尾昭久、野口正典：HLA-A24陽性前立腺癌患者において免疫原性を有するPSCA由来抗原ペプチドの同定. 第63回日本癌学会学術総会, 9/29-10/1/2004, 福岡.
19. 伊東恭悟：テーラーメイド癌ペプチドワクチン. 第56回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 11/6-7/2004, 久留米.
20. 竹田津宏子、伊東恭悟：TP0由来ペプチドの免疫反応性誘導能. 第34回日本免疫学会総会・学術集会 12/1-3/2004. 北海道
21. 田中将博、小松誠和、七條茂樹、伊東恭悟：ペプチド抗体価測定による膵臓癌診断の検討. 第34回日本免疫学会総会・学術集会 12/1-3/2004. 北海道
22. 原美穂、原田守、松枝智子、田村真由美、伊東恭悟：子宮頸癌特異的CTLを誘導できるヒパピローマイルス由来でsplicing variantにコードされるエピトープの同定. 第34回日本免疫学会総会・学術集会 12/1-3/2004. 北海道

【植村天受 分担研究者】

23. 植村天受、藤本清秀、清水一宏、中西まこ、田

中基幹、平尾佳彦. 腎細胞癌および前立腺癌に対する癌ペプチドワクチン療法の臨床検討. 第13回泌尿器科分子細胞研究会；2004年2月27-28日, 東京.

24. 植村天受. 内分泌不応再燃前立腺癌に対するオーダーメイドペプチドワクチン療法. 第11回近畿前立腺シンポジウム；2004年3月12日, 大阪.
25. 植村天受. 難治性腎細胞癌と再燃前立腺癌の癌ワクチン療法. 第60回日本泌尿器科学会茨城地方会 特別講演；2004年6月19日, 筑波.
26. 植村天受、上島成也、田中基幹、藤本清秀、平尾佳彦、吉川和宏、伊藤恭悟. 難治性腎癌ならびに前立腺癌に対するペプチドワクチン療法の治療成績. 第42回日本癌治療学会総会；2004年10月27日-29日, 京都.
27. 植村天受. 癌ワクチン療法—開発から臨床応用まで—. 第33回 Shizuoka Uro-Oncology Forum；2005年1月15日, 浜松.

【嘉村敏治 分担研究者】

28. Ushijima K, Kamura T et al., Expression of Y box-binding protein-1, P-glycoprotein, and topoisomerase II α as a prognostic marker for survival in epithelial ovarian cancer. 第56回日本産科婦人科学会学術講演会2004年4月10-13, 東京
29. Nagayama S, Kamura T et al., The investigation on correlation of production of ANP with fetal growth in Dahl salt sensitive rat with pregnancy-induced hypertension. The 20th The Fetus as a Patient. 2004年4月23-26, 福岡
30. Nishio S, Kamura T et al., Fertility preserving treatment for malignant germ cell tumors of the ovary. The 50th Annual congress of the Japan section. The internal college of surgeons. 2004年6月19, 久留米
31. 西田直代, 嘉村敏治, 他: 上皮性卵巣腫瘍における血管新生因子VEGF-Cとその受容体VERGRRの発現. 第56回日本産科婦人科学会学術講演会, 2004年4月10-13, 東京
32. 竹本由美, 嘉村敏治, 他: Interferon- α con1による卵巣明細胞腺癌のin vitro及びin vivoにおける増殖抑制作用の検討, 第56回日本産科婦人科学会学

術講演会, 2004年4月10-13, 東京

33. 望月一生, 嘉村敏治, 他: 再発子宮頸癌に対する非テーラーメイドペプチドワクチン投与の免疫学的評価と臨床効果, 第56回日本産科婦人科学会学術講演会, 2004年4月10-13, 東京

34. 望月一生, 嘉村敏治, 他: 治療不応癌、再発癌に対するpre-designated peptide vacciner療法の評価, 第63回日本癌学会総会, 2004年9月29-10月1, 福岡市

35. 牛嶋公生, 嘉村敏治, 他: 卵巣癌における薬剤耐性関連蛋白YB-1, P-glycoproteinの発現と予後, 第63回日本癌学会総会, 2004年9月29-10月1, 福岡市

【七條茂樹 分担研究者】

36. 正村裕紀, 七條茂樹, 松枝智子, 前田好章, 近藤正男, 佐藤裕二, 藤堂省, 伊東恭悟: HLA-A2陽性肺癌患者の細胞性および液性免疫両者によって認識されるEGFR由来ペプチドの同定, 第8回 基盤的癌免疫研究会総会, 札幌, 7/15-16/2004

37. 笹田哲郎, 東公一, 竹田津宏子, 古賀真, 前田好章, 正村裕紀, 七條茂樹, 高林有道, 伊東恭悟: 胃癌組織由来の細胞傷害性T細胞株を用いた新たなHLA-A33拘束性癌抗原エピートプの同定, 第63回 日本癌学会学術総会, 福岡, 9/29-10/1/2004

38. 小松誠和, 七條茂樹, 伊東恭悟: フローメトリによるペプチド抗体測定とワクチンモニタリング, 第63回 日本癌学会学術総会, 福岡, 9/29-10/1/2004

39. 石原愉希, 七條茂樹, 東公一, 小松誠和, 伊東恭悟: 大腸癌患者由来HLA-A2拘束性CTLが認識するkinesin familyと考えられる新規遺伝子の同定, 第63回 日本癌学会学術総会, 福岡, 9/29-10/1/2004

40. 正村裕紀, 七條茂樹, 松枝智子, 前田好章, 近藤正男, 佐藤裕二, 藤堂省, 伊東恭悟: HLA-A24陽性肺癌患者の細胞性および液性免疫両者によって認識される上皮成長因子受容体(EGFR)由来ペプチドの同定, 第63回 日本癌学会学術総会, 福岡, 9/29-10/1/2004

41. 東公一, 七條茂樹, 石原愉希, 小松誠和, 伊東恭悟: HLA-A2大腸癌患者におけるCTLにより認識されるThymidylate synthase由来抗原ペプチ

ドの同定, 第63回 日本癌学会学術総会, 福岡, 9/29-10/1/2004

42. 田中将博, 小松誠和, 七條茂樹, 伊東恭悟: ペプチド抗体価測定による膵臓癌診断の検討, 2004日本免疫学会総会, 札幌, 12/1-3/2004

【藤堂省 分担研究者】

43. 講演: 映像による私の手術手技「V8・V5静脈再建及び門脈グラフトを要する成人生体右葉肝移植」、第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪市, 2004.4.9

【野口正典 分担研究者】

44. 末金茂高, 野口正典, 中島収, 神代正道, 松岡啓: 繰り返し前立腺生検にて発見された前立腺癌の臨床病理学的特長の検討, 第92回日本泌尿器科学会総会, 平成16年4月10日-13日, 大阪市

45. 野口正典, 末金茂高, 山田亮, 伊東恭悟, 松岡啓: HLA-A2陽性再燃前立腺癌患者に対するテーラーメイド型癌ペプチドワクチン療法の第I相臨床試験, 第92回日本泌尿器科学会総会, 平成16年4月10日-13日, 大阪市

46. 八尾昭久, 原田守, 野口正典, 原勲, 守殿貞夫, 伊東恭悟: HLA-A24前立腺癌患者で免疫原性を有するparathyroid hormone-related protein由来抗原ペプチドの同定, 第92回日本泌尿器科学会総会, 平成16年4月10日-13日, 大阪市

47. 野口正典: 久留米大学に於ける医師主導型新薬開発, 久留米大学臨床試験研修セミナー講演会, 平成16年5月11日, 久留米大学

48. 野口正典: 再燃前立腺癌に対するテーラーメイド型癌ペプチドワクチン療法, 筑後泌尿器科医会第41回研修会, 平成16年5月18日, 久留米市

49. 野口正典: 前立腺生検アンケート調査集計結果, 第4回九州前立腺癌臨床課題研究会, 平成16年6月12日, 長崎市

50. 野口正典: 久留米大学および関連施設における前立腺癌内分泌療法について(J-CAP研究より), 筑後泌尿器科医会第42回例会学術講演会, 平成16年6月24日, 久留米市

51. 八尾昭久, 野口正典, 末金茂高, 松岡啓, 原勲, 守殿貞夫, 山田亮, 伊東恭悟: 再燃前立腺癌を対象としたテーラーメイド型癌ペプチドワクチン療法の

第Ⅰ相臨床試験。第8回基盤的癌免疫研究会総会
平成16年7月15日(木)～16日、札幌市

52. 野口正典：医師主導型新薬開発の現況
北九州市泌尿器科医会・平成16年度第3回研修会
平成16年9月9日、北九州市

53. 野口正典、伊東恭悟、山田亮、松岡啓：ホルモン不応性再燃前立腺癌に対するテーラーメイド型癌ペプチドワクチン療法の有用性。
第42回 日本癌治療学会総会、平成16年10月27日～29日、京都府

54. 野口正典、鳥脇純一郎、松岡啓：3次元仮想前立腺モデルに対する前立腺針生検シミュレーション：至適生検法の検討。第42回 日本癌治療学会総会、平成16年10月27日～29日、京都府

55. 末金茂高、野口正典、鳥脇純一郎、松岡啓：前立腺全摘標本より作製した3次元仮想前立腺モデルを用いた前立腺針生検戦略。第42回 日本癌治療学会総会、平成16年10月27日～29日、京都府

56. 野口正典、伊東恭悟、山田亮、松岡啓：再燃前立腺癌に対するテーラーメイド型ペプチドワクチン療法：第Ⅱ相試験から創薬化へ。第56回日本泌尿器科学会西日本総会、平成16年11月11日～13日、大分市

57. 野口正典：TULの実際
福岡佐賀手術手技研究会、平成16年12月1日、福岡市

【 山名秀明 分担研究者 】

58. 藤井輝彦、中村アンナ、横山吾郎、小池健太、三島麻衣、山口美樹、弥永浩、白水と雄、山名秀明、津田英照：ヒト乳癌細胞株SKBR-3におけるantineoplastonの増殖抑制効果の検討。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

59. 中村寿、高森信三、藤井輝彦、福永真理、三輪啓介、真栄城兼誉、林明宏、桑野信彦、山名秀明、白水と雄：Gefitinibの肺癌における感受性制御とHerceptin併用に関する抗腫瘍効果の検討。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

60. 佐藤裕二、前田好章、正村裕紀、本間重紀、近藤正男、山名秀明、伊東恭悟、藤堂省：進行・再発消化器癌に対するペプチドワクチン第I/II相試験。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

61. 末吉晋、田中寿明、笹原弘子、的野吾、森直樹、

李美慧、田中優一、藤井輝彦、山名秀明、藤田博正、白水と雄：食道癌リンパ節郭清の限界。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

62. 唐宇飛、山名秀明、峯孝志、藤井輝彦、笹富輝男、堀内彦之、石橋生哉、藤田博正、白水と雄：集学的治療としての細胞免疫化学療法による難治性進行癌の治療。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

63. 笹富輝男、宮城佳昭、鳥越昇二郎、佐藤裕一郎、福光賞真、岸本幸也、的野敬子、金澤昌満、大北 亮、石橋生哉、岡洋右、木戸浩一郎、唐宇飛、小篠洋之、荒木靖三、山名秀明、伊東恭悟、緒方裕、白水と雄：進行再発大腸癌に対する免疫化学療法。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

64. 前田好章、佐藤裕二、正村裕紀、本間重紀、近藤正男、山名秀明、伊東恭悟、藤堂省：抗腫瘍ペプチドワクチン臨床試験における臨床病理学的因子による予後予測の試み。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

65. 森直樹、末吉晋、田中寿明、田中優一、笹原弘子、的野吾、山名秀明、藤田博正、白水と雄：食道癌術後再建胃管の酸分泌能についての検討。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

66. 的野吾、田中寿明、末吉晋、笹原弘子、田中優一、森直樹、山名秀明、藤田博正、白水と雄：食道扁平上皮癌におけるgap junctional intercellular communication増加によるHSV-tk/GCV癌遺伝子治療の増強効果。第104回日本外科学会定期学術集会(2004.4.7-9, 大阪)

67. 唐宇飛、藤井輝彦、弥永浩、三島舞衣、横山吾郎、笹富輝男、石橋生哉、堀内彦之、白水と雄、由谷茂、山名秀明：抗癌剤・放射線併用免疫細胞療法の臨床効果と患者リンパ球サイトカイン産生に関する検討。第25回日本癌免疫外科研究会、第26回癌局所療法研究会ジョイントミーティング(2004.5.20-21, 京都)

68. 田中優一、藤田博正、末吉晋、田中寿明、的野吾、森直樹、笹原弘子、李美慧、山名秀明、白水と雄：化学放射線療法の臨床的效果判定と病理学的効果判定の相関。第58回日本食道学会(2004.6.24-25, 東京)

69. 田中寿明、末吉晋、田中優一、笹原弘子、的野吾、森直樹、山名秀明、白水と雄、藤田博正：食道癌術後再発症例に対するDocetaxel/5-FU/CDDPを用

いた化学療法。第58回日本食道学会 (2004. 6. 24-25, 東京)

70. 佐藤史顕、嶋田裕、山名秀明、今村正之：全国食道癌登録データとArtificial Neural Networkを用いた、食道癌の5年予後の予測。第58回日本食道学会 (2004. 6. 24-25, 東京)

71. 森直樹、末吉晋、田中寿明、田中優一、笹原弘子、的野吾、李美慧、山名秀明、藤田博正、白水和雄：アルカリ飲用による腐食性食道狭窄の2例。第58回日本食道学会 (2004. 6. 24-25, 東京)

72. 末吉晋、田中寿明、笹原弘子、的野吾、田中優一、森直樹、李美慧、山名秀明、藤田博正、白水和雄：Open手術からみた食道癌鏡視下手術の評価。第59回日本消化器外科学会定期学術総会 (2004. 7. 21-23, 鹿児島)

73. 的野吾、末吉晋、田中寿明、田中優一、笹原弘子、森直樹、李美慧、山名秀明、藤田博正、白水和雄：同時性胸部食道癌・下咽頭癌重複症例の臨床的検討。第59回日本消化器外科学会定期学術総会 (2004. 7. 21-23, 鹿児島)

74. 森直樹、末吉晋、田中寿明、田中優一、笹原弘子、的野吾、李美慧、山名秀明、藤田博正、白水和雄：胸部食道癌術後再建胃管における酸分泌能回復についての検討。第59回日本消化器外科学会定期学術総会 (2004. 7. 21-23, 鹿児島)

75. 田中寿明、末吉晋、田中優一、笹原弘子、的野吾、森直樹、山名秀明、藤田博正、白水和雄：進行食道癌に対するステント治療—食道・気管ステント—。第59回日本消化器外科学会定期学術総会 (2004. 7. 21-23, 鹿児島)

76. 田中優一、末吉晋、田中寿明、笹原弘子、的野吾、森直樹、李美慧、山名秀明、藤田博正、白水和雄：食道癌術後再建胃管癌、および手術不能胃癌に対する光線力学療法(PDT)。第59回日本消化器外科学会定期学術総会 (2004. 7. 21-23, 鹿児島)

77. 笹富輝男、的野敬子、大北亮、石橋生哉、唐宇飛、荒木靖三、緒方裕、伊東恭悟、山名秀明、白水和雄：進行再発大腸癌に対する免疫化学併用療法。第59回日本消化器外科学会定期学術総会 (2004. 7. 21-23, 鹿児島)

78. フォトバティ アバス、藤井輝彦、小野真弓、梁松珠、大家真治、山名秀明、桑野信彦：抗転移遺伝子Cap43の乳癌における発現とホルモン応答。

第63回日本癌学会学術総会 (2004. 9. 29-10. 1)

79. 野尻久雄、山名秀明：レチノイン酸による顆粒球系終末分化誘導抵抗性HL-60亜株におけるガンگریオシド発現能と分化誘導抵抗性との関連性。第63回日本癌学会学術総会 (2004. 9. 29-10. 1)

80. 中村寿、藤井輝彦、高森信三、福永真理、小野真弓、山名秀明、白水和雄：非小細胞肺癌に対するZD1839(Irresa)とTrastuzumab(Herceptin)併用に関する増強効果。第63回日本癌学会学術総会 (2004. 9. 29-10. 1)

81. 末吉晋、田中寿明、田中優一、笹原弘子、的野吾、森直樹、李美慧、永野剛志、山名秀明、白水和雄、藤田博正：進行胸部食道癌に対する胸筋温存開胸・HALSによる切除再建術。第66回日本臨床外科学会総会 (2004. 10. 13-15, 盛岡)

82. 田中寿明、末吉晋、田中優一、笹原弘子、山名秀明、藤田博正、白水和雄：食道癌に対する集学的治療。第66回日本臨床外科学会総会 (2004. 10. 13-15, 盛岡)

83. 唐宇飛、山名秀明、藤井輝彦、弥永浩、横山吾郎、笹富輝男、堀内彦之、石橋生哉、白水和雄：Heterogenetic T細胞免疫療法と非免疫抑制性化学療法との併用による総合的癌免疫療法の展望。第17回日本癌治療学会総会 (2004. 11. 25-26, 京都)

84. 笹富輝男、的野敬子、野副安宏、福光賞貴、山田亮、唐宇飛、石橋生哉、緒方裕、山名秀明、白水和雄：進行再発大腸癌に対する免疫化学併用療法。第17回日本癌治療学会総会 (2004. 11. 25-26, 京都)

85. 唐宇飛、藤井輝彦、田山光介、横山吾郎、山口美樹、笹富輝男、堀内彦之、白水和雄、関直子、山名秀明：ヘテロ細胞免疫療法と非免疫抑制性化学療法との併用及びその臨床的展望。第17回日本バイオセラピー学会学術集会総会 (2004. 11. 25-26, 北九州)

86. 笹富輝男、唐宇飛、荒木靖三、関直子、緒方裕、山名秀明、白水和雄：癌活性化リンパ球とプロテアソーム阻害薬との併用による抗腫瘍効果。第17回日本バイオセラピー学会学術集会総会 (2004. 11. 25-26, 北九州)

【 山中龍也 分担研究者 】

87. 山中龍也 中枢神経系原発悪性リンパ腫の当科における治療成績、ミニシンポジウム「節外性リンパ腫の治療」、新潟リンフォーラムフォーラム2004、